

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol. 33

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

被災地学修(地域学修)が終了 新入生全員が被災地を訪問しました

岩手大学は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択された、「地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト」を今年度から本格実施しています。

このプロジェクトは、被災地学修、岩手の歴史や文化の科目、地域課題を解決する実践科目、県内企業・自治体へのインターンシップなど、岩手に関する科目を全ての学生に提供することで、地域の課題を解決できる人材として育成し、地元への定着を促します。

今年度、全新入生を対象に試行としてスタートした被災地学修は、被災地へ出向き、地元の人々の話を聴くことで、岩手を知る上で重要な東日本大震災について理解を深め、復興のために大学で何をどのように学ぶべきかを考えるきっかけとなることを目的としています。

4月から8月にかけて実施した被災地学修は、1100名を超える学生が参加しました。学科やゼミの33グループで被災地を訪問し、自治体、企業、NPOの方々から震災による被害状況や復興の様子、その地域の産業・文化・まちづくりの現状などについて話を聴き、討論などを行いました。学生たちからは、訪問先での体験を通じて、被災地(地域)の役に立つためには、まずは被災地の問題を自分の問題として共有する

ことが必要であると理解した様子が窺えました。

岩手大学は、「地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト」を通じて、地域が抱える課題に向き合い、その課題の解決に貢献できる人材を育成してまいります。



旧たろう観光ホテル前での被災地学修の様子(8月2日)

地域防災フォーラム「未来への復興まちづくり」を開催しました

地域防災研究センターは、地域の特性に応じた防災システム(三陸モデル)の構築を目指し、自然災害や防災・減災、被災地の復興やまちづくり、あるいは災害文化の醸成・継承に関する調査・研究・活動を行い、そこで得られた知見を普及するために地域防災フォーラムを定期的に開催しています。

8月3日、第9回フォーラム「未来への復興まちづくり～岩手大学×神戸大学連携フォーラム」を工学部キャンパス内復興祈念銀河ホールにて開催しました。今回は、神戸大学都市安全研究センターと連携し、阪神淡路大震災からの復興の経験を踏まえ、未来志向の復興まちづくりについて討議を行いました。岩手大学からは、これまでのセンターの取り組みの紹介に続き、実践的危機管理、人材育成、市民の自己実現によるまちづくりについて発表が行われ、神戸大学からは、地域特性を考慮した持続的復興の問題点、災害の歴史を切断しない重要性、復興の担い手に焦点を当てたコミュニティ再生の意義について知見が示されました。

フォーラムには約70名の市民や学生、留学生が集い、総合討論では活発な議論が交わされました。



総合討論の様子

復興の過程においての課題は多くありますが、希望をつなぐ復興まちづくりのために、参加者一同、地域や住民に寄り添いながら活動を推進していく方向性を確認し閉会しました。

開会あいさつ 越谷 信(岩手大学地域防災研究センター副センター長、工学部准教授)

第1部 岩手大学

基調報告「地域防災研究センターのこれまでの活動と今後について」

南 正昭(地域防災研究センター長、工学部教授)

報告「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり
—国連防災会議(陸前高田市分科会)の準備状況—」

村上 清(人文社会科学部客員教授、陸前高田市市政アドバイザー)

報告「防災危機管理のための人材育成について」

越野 修三(地域防災研究センター教授)

第2部 神戸大学

報告「大船渡赤崎地区におけるエンパワメント」

松岡 広路(人間発達環境学研究所教授)

報告「復興過程の大学の地域連携—阪神淡路での歴史分野からの示唆—」

奥村 弘(人文学研究科教授、地域連携推進室長)

報告「兵庫行動枠組みを生かすコミュニティ主体の地域復興
—日本とアジアの制度比較—」

金子 由芳(国際協力研究科教授)

総合討論

開会あいさつ 北後 明彦(神戸大学都市安全研究センター長、教授)

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、地域防災教育研究部門(地域防災研究センター)の活動の一例をご紹介します。

過去の経験から津波被害を推定する～建物群被災確率モデルの開発～

岩手大学三陸復興推進機構 地域防災研究センター自然災害解析部門

柳川 竜一 (三陸復興推進機構 特任助教)

地域防災研究センター自然災害解析部門では、岩手県で起こりうる様々な自然災害を対象とした研究および地域防災力向上に向けた活動を推進しています。水災害分野では、主に東日本大震災で発生した津波の解析や陸域での被害に関する活動を通じ、海岸保全施設(防潮堤、海岸堤防、防波堤、水門等)の適正配置について研究を行っています。

東日本大震災に伴う津波により、岩手県沿岸地域では多くの建物が流出・大破・破損・床上浸水などの甚大な被害を受けました。岩手県内における津波浸水区域内に存在した建物は45,000棟を超え、その85%が全壊(津波による流出、壁面や柱の損壊により再生不可能な状態)被害である事が国土交通省の調べで明らかとなっています。そこで、当時実施された現場調査や津波数値シミュレーション資料の整理とGIS(地理情報システム)の活用により、津波の大きさ(津波浸水深)、建物

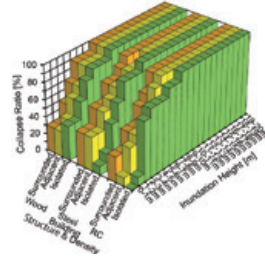


図1. 建物構造・建物密集度・浸水深から推定された岩手県内建物の全壊確率



構造種(RC造・S造・W造)、建物配置(密集性)の違いにより建物がどの程度被害を受けたのかを推定するモデル開発(図1)と精度検証を実施しています。陸前高田市中心部(図2)では、半分程度の地域で最大浸水深が9mを超えたと推定され、全壊した建物は95.2%に達しました。確率モデル(図3)では、建物の全壊確率が浸水深の低下とともに低下したり、孤立している堅牢なRC造・S造建物が密集地域内のRC造・S造建物よりも被害が小さかった傾向を再現しており、今後のまちづくりへの参考資料になることが期待されます。今後は精度の向上および東南海・東海・南海地震が危惧される他地域への応用にも取り組みたいと考えております。

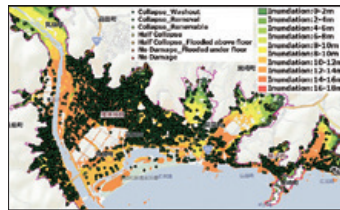


図2. 陸前高田市中心部での津波浸水深と建物被害状況

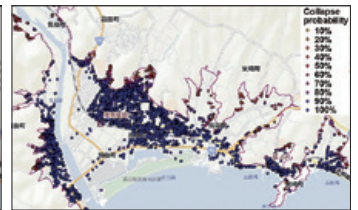


図3. 建物群被災確率モデルによる建物被害の推定

大船渡エクステンションセンターだより

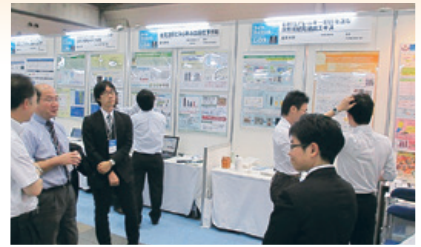
●イノベーション・ジャパン 2014

9月11日と12日、東京ビッグサイトを会場に「イノベーション・ジャパン 2014～大学見本市&ビジネスマッチング～」(主催: (独) 科学技術振興機構、(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構) という展示会が開催され、大船渡エクステンションセンターからも視察に行っていました。

この展示会は、500を超える大学やベンチャー企業等が研究開発の成果を展示・発表する国内最大規模の産学マッチング展示会で、初日、二日目とも1万2千人近い入場者があり大盛況の様子でした。岩手大学からも2ブース出展しましたので簡単にご紹介いたします。

ナノテクノロジー部門での呉松竹工学部准教授による、「Sn/Ag3Snナノ積層めっきの層構造制御および特性評価」技術の展示では、自動車に用いられるコネクタ等の部品の耐熱性や耐摩耗性の向上を目指しためっき技術が紹介されました。また、ライフサイエンス部門での木村賢一農学部教授による、「新規抗アレルギー物質を含む久慈産琥珀抽出エキス」の展示では、久慈市周辺地域の土中に埋もれている琥珀のみに含まれる新規物質「kujigamberol」(久慈頑張ろう!!) が持つ抗アレルギー作用の紹介が行われました。鼻づまりやかゆみに対して改善効果が認められることから、化粧品やマスク、ティッシュ等への用途が想定されるようです。

本展示会ではこれまでの10年間に3500を超える大学等のシーズを企業関係者に発表・展示されてきましたが、これをきっかけとした共同研究や技術移転、ライセンス供与が行われ、売り上げが数億円規模となった事業化例も生まれているそうです。岩手県気仙地区の企業にもこのような展示会に出展し、イノベーションにつなげていただけるよう、大船渡エクステンションセンターでは活動を推進してまいります。



展示会での岩手大学ブースの様子

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 大船渡エクステンションセンター

〒022-8501 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢15大船渡市商工港湾部内
TEL : 080-5745-9775 E-mail : ofunato@iwate-u.ac.jp

Information

岩手大学 秋の行事のご案内



岩手大学の不來方祭、オープンキャンパスと、同時開催のイベントをご案内します。

●岩手大学不來方祭

岩手大学の大学祭「不來方祭」では、学生による屋台出店や音楽ライブなどが行われます。
日時：10月18日(土)、19日(日) 10:00～16:00(両日とも)
場所：岩手大学構内
主催・お問い合わせ 岩手大学不來方祭実行委員会
メール：gakusai@iwate-u.ac.jp

●第10回地域防災フォーラム「東日本大震災に関する調査研究報告～岩手県における被災から現在まで～」

東日本大震災に関する調査報告書の中から、岩手県を対象とした事例や研究成果を紹介し、被害状況および復興過程について考えます。
日時：10月18日(土) 15:00～17:20(開場14:30)
会場：工学部復興記念銀河ホール
主催：岩手大学地域防災研究センター
お問い合わせ 地域防災研究センター 電話：019-621-6448

●第2回岩手大学オープンキャンパス2014

学部紹介やミニ講義、研究室公開などを行います。受験生はもちろん、一般の方のご来場もお待ちしております。
日時：10月18日(土) 9:30～14:00
場所：岩手大学構内
主催：岩手大学
お問い合わせ 入試課 電話：019-621-6064



●水中ロボットで遊ぼう!

東日本大震災で被災した水産業の復興に貢献する、ロボットの操縦を体験してみませんか?
日時：10月18日(土) 10:00～15:00(随時お越し下さい)
場所：工学部3号館1階108室
主催：工学部機械システム工学科三好研究室
お問い合わせ 工学部 三好 メール：tmiyoshi@iwate-u.ac.jp